

ジーティン

# GTINを正しく使っていますか？

—得意先の卸売業や小売業、物流業者などが混乱しないために—

## 1. 「JANコード、集合包装用商品コードとは別に、GTINという新しい14桁の商品識別コードができた」ということではありません。

GTINとは、GS1が標準化した、従来からある商品識別コード

[集合包装用商品コード (14桁)、JAN (EAN) コード (13桁、8桁)、UPC (12桁)] の総称です。

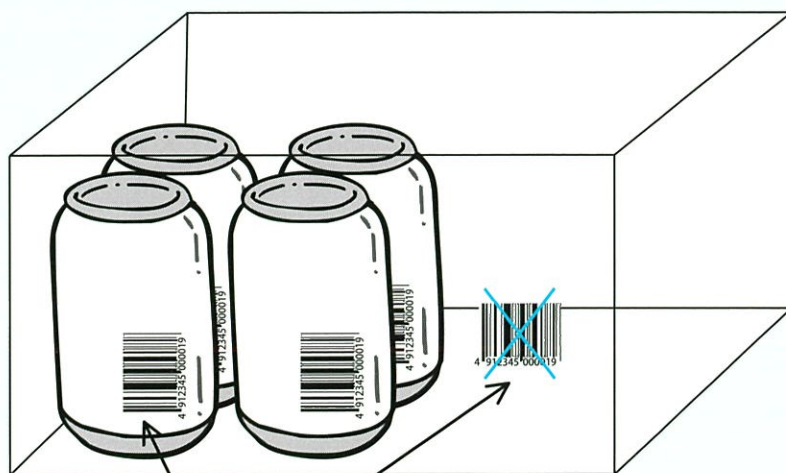
(集合包装用商品コード (14桁) はGTIN-14と、JAN (EAN) コード (13桁、8桁) はGTIN-13、GTIN-8と、UPC (12桁) はGTIN-12と、それぞれ呼ばれる場合があります)。

なお、GTINは、以下のような場面において、桁数を14桁に揃えて扱われます。

(8桁・12桁・13桁のコードは、先頭に「0」を付け足すことで14桁にします)。

- ①新しいバーシボルであるGS1-128、GS1データバーでは、アプリケーション識別子AI (01) で規定される「商品識別コード」に、14桁に揃えたGTINを使用します。
- ②標準EDIである流通BMSでは、商品識別コードとしてGTINを使用する場合は、14桁に揃えて使用します。

## 2. 集合包装 (ボール、ケース) に、中に入っている商品のJANコード (単品JANコード) と同一のJANコードを設定・表示することはできません。



単品JANコード

4912345000019

(裏面に続く)

単品には単品JANコード（GTIN-13）を設定し、その単品を内包する集合包装には通常、集合包装用商品コード（GTIN-14）を設定します（その集合包装をケース販売する場合は次の3.の通りとなります）。

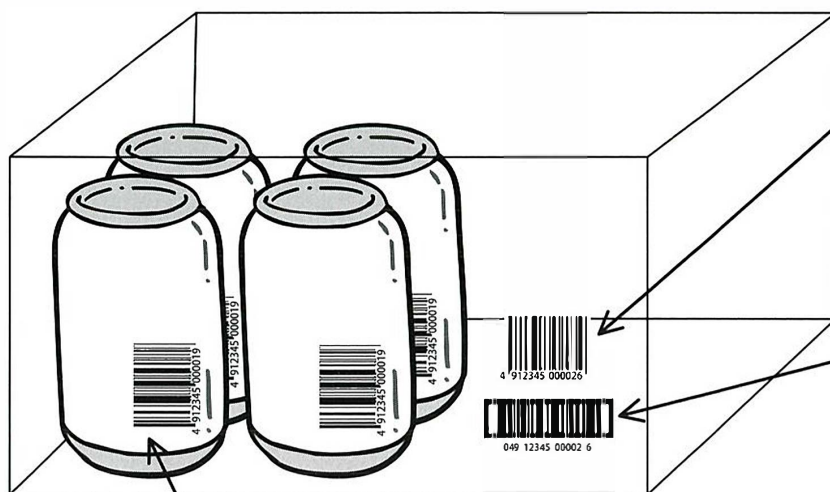
これは「異なる取引単位には異なるGTINを設定する」というGTIN基本ルールによるものです。単品と集合包装に同じコードが設定されていると、流通の各段階で商品識別が難しくなり混乱が生じます。

### 3. ケース販売をする商品に、ケース販売用のJANコードと、それと異なる集合包装用商品コードを設定・表示することはできません。

形状が集合包装であっても、消費者が購入する単位、レジを通る単位である（ケース販売をする）場合は単品扱いとなるため、内包されている単品商品の単品JANコードとは異なる「ケース販売用JANコード」を設定します。またITFシンボルによる表示が必要な場合は、このケース販売用JANコードの先頭に“0”を付け14桁とした数字をITFシンボルにより表示します。

これは「一つの取引単位には一つのGTINのみを設定する」というGTIN基本ルールによるものです。

下図は、ビール・飲料業界の例です。ケース販売をする商品にはGTINがひとつだけ設定されており、それを異なる二つのバーシymbol（JANシンボルとITFシンボル）により表示しています。



集合包装（段ボール）には  
ケース販売用JANコードを設定し、  
JANシンボルで表示します。

4912345000026

集合包装（段ボール）に  
ITFシンボルによる表示が必要な場合は、  
ケース販売用JANコードの先頭に  
“0”をつけた数字をITFシンボルに  
より表示します。

04912345000026

内包されているビール（単品）には  
単品JANコードを設定し、JANシンボルで表示します。

4912345000019

#### 【お問い合わせ】

一般財団法人 流通システム開発センター GTIN 担当

TEL：03-5414-8511 お問合せフォーム：<http://www.dsri.jp/contact/>

URL：<http://www.dsri.jp/standard/identify/gtin/>（詳細な資料はこちらをご参照下さい）